（別紙様式２）

環境教育に関する取組を活用した調査研究　平成２３年度実施計画書【実践協力校】

都道府県名	秋田県

１．実践協力校の概要（平成２３年度４月現在）

あきたけんだいせんしりつおおまがりみなみちゅうがっこう
秋田県大仙市立大曲南中学校

	１年	２年	３年	特別支援学級	計	教員数
学級数	１	２	１	１	５	１５
生徒数	３３	４１	３３	２	１０９	

２．研究課題及びその設定理由

（１）研究課題

課題例：①，②，③，⑤　　テーマ例：ａ，ｅ，ｆ

研究課題　自然と子どもの心を未来につなぐ環境教育の地域連携についての研究
～「エネルギー」「国際理解」「食」で取り組む環境教育 ～

（２）研究課題設定の理由

本校は，東に奥羽山脈，西に出羽丘陵を望み，横手盆地の北に位置する，稲作を中心とした農業の盛んなところである。雄物川と横手川の合流地点に近く，田園が広がる豊かな自然環境の中にある。

環境教育を本校教育の柱と位置付け，様々な活動を展開して３年が過ぎた。「未来の地球　今私たちにできること」を合い言葉に，小・中の連携や地域との連携を通して「考え，行動する環境教育」を実践してきた。本校の環境教育は，エネルギー教育からスタートした。これは，「エネルギー教育と環境教育は一体のもの」という考えからの出発だった。ユネスコスクール加盟を機に，ＥＳＤを意識した取組をすることになり，「エネルギー教育」「環境教育」にエネルギーや環境教育と関係が深い「国際理解教育」を加え，ＥＳＤに迫る実践に取り組んできた。

ＥＳＤの根本となるのは「生きる力」である。将来を担う中学生に，「今の日本や世界はどうなっているのか」，「これからの地球はどうなるのか」，「今自分たちは何ができるのか」を考えさせ，主体的な行動を起こさせることをねらいとして，ＥＳＤに取り組んできた。単なる活動主義ではない，「思考・判断・表現」に視点を置いた環境教育を実践し，積極的に地域への発信も行ってきた。

また，環境学習を教育課程全般に位置付け，学年ごとの環境教育カリキュラムデザインを，新しい学習指導要領（平成２０年３月告示）に適合するよう改編した。その中に小・中連携での取組も明示した。本校の環境教育のキーワードは，Curriculum（教育課程），Consensus（合意，意識），Cooperation（連携），Communication（伝達，発信），Continuation（継続）の五つの「Ｃ」である。特に Cooperation（連携）に力を入れ，藤木小学校，角間川小学校と連携し，本校がリードしながら地域で取り組む環境教育を目指してきた。さらに本校が事務局となって活動している「大仙市中学生サミット」でも，各校で「エコ」についての具体的な活動を，小・中連携で継続・発展させることになり，環境保全の波が，本校を中心として全市に広がっている。

環境教育の目的は「持続可能な社会に向けた人づくり」である。「人づくり」のためには，小・中や地域との連携が不可欠である。未来の環境は，現在の取組の結果として現れ，最もその影響を受けるのは未来の人々，すなわち現在の子どもたちである。今年度は，「エネルギー」と「国際理解」，さらには「食育」の視点から環境教育にアプローチしたいと考えている。そして，環境教育の地域連携をもとにＥＳＤに迫りたいと考え，この研究課題を設定した。

３. 研究内容

本校では，研究組織の中に「環境教育部」を設置する。また，研究主任が環境教育主担当を兼ねる研究組織である。学校教育全体での環境教育を目指し，学年ごとの環境教育カリキュラムデザインを作り実践している。本年度は，環境教育カリキュラムデザインを「エネルギー」「国際理解」「食育」の観点から改編し，環境ＥＳＤカレンダーを作成したい。また，生徒会が行う様々な活動の中にも，環境教育につながる活動が数多くあるため，生徒会活動や大仙市中学生サミットとの連携も重視している。

小・中連携では，一昨年度から「小・中連携環境デー」を実施している。本年度は，環境教育での連携を強化させたいと考えている。小・中合同の活動や，中学生の出前授業，職員や保護者の連携をし，地域で取り組む環境教育を目指している。

〈環境教育全体に関わる取組〉

７月　・白神山地自然体験学習
　　・親水公園クリーンアップ
　　・小・中合同クリーンアップ
８月　・アルミ缶，ペットボトルキャップ回収活動
　　・夏休み環境課題（作文，写真，ポスター等）
９月　・環境ワークショップ
１０月　・環境学習発表会（学校祭で）
１１月　・環境教育講演会

環境保全の意識や行動力を高める取組である。小・中学校が連携し，豊かな自然環境を地域ぐるみで保全していこうと行動するものである。

〈「エネルギー」の視点からの取組〉

各教科等で「エネルギー」に関連する内容を，各学年の環境ＥＳＤカレンダーに明示する。

５月　・緑のカーテンプロジェクト開始
　　・ＤＶＤ「北極大変動」「不都合な真実」視聴
６月　・ソーラーカー見学会（大曲工業高校と連携）
　　・キャリアスタートウィークでのエコ学習
７月　・新エネルギー講演会（生徒対象）
８月　・エコチャレンジ
９月　・地熱発電所見学
　　・省エネクッキング出前講座
１０月　・学校祭エネルギー環境ブース運営
　　・能代火力・風力発電所，木質バイオマス発電所見学
　　・「エコハウス」についての出前授業
１１月　・小・中連携環境デー（小学生対象のエネルギー実験講座と出前授業）
１２月　・ソーラーイルミネーション
１月　・燃料電池出前講座

エネルギー環境教育には，昨年度まで積極的に取り組んできた。その取組を継続したい。また，大仙市中学生サミットでは，小学校や地域との連携を考えた，新しい取組が提案されることと思われる。これまで生徒会の各委員会でも，「昼のエコニュース」等の活動に取り組んできたが，新たな取組に期待している。また，大仙市環境課主催の「エコチャレンジ」等の取組にも，積極的に参加するようにしたい。

〈「国際理解」の視点からの取組〉

各教科等で「国際理解」に関連する内容を，各学年の環境ＥＳＤカレンダーに明記する。

７月　・国際理解から環境を考えるワークショップⅠ（秋田県地球温暖化防止活動推進センターと秋田商業高校と連携）
１０月　・国際理解から環境を考えるワークショップⅡ（秋田商業校の出前ワークショップ）
　　・オフセットカフェの取組（ＮＧＯ　ＲＡＣＩＣＡと連携）
　　・「ホスタープラン（国際里親制度）」参加
１１月　・海外青年協力隊経験者講演会

ユネスコスクールの仲間である，秋田商業高校との連携を密にし，国際理解を環境と結びつけて考える。また，ＪＩＣＡ等との連携をし，地球環境を経済や国際関係からも考えることができるようにしたい。持続可能な社会の構築のためには，世界全体で取り組まなければならないという意識を芽生えさせ，その中で自分ができることを考え，行動させたい。

〈「食育」の視点からの取組〉
各教科で「食育」に関連する内容を，各学年の環境ＥＳＤカレンダーに明記する。
５月　・緑のカーテンプロジェクト開始
　　・「有機肥料で育てる野菜」栽培開始
６月　・微生物の役割についての講演会（大曲農業高校と連携）
７月　・食育講演会（保護者対象）
９月　・省エネクッキング出前授業
１０月　・フードマイレージ講演会
今年から新たに取り組む分野である。しかし，昨年まで「省エネクッキング」や「フードマイレージ」については「エネルギー」の分野として取り組んできた内容である。「食育」は家庭との連携が不可欠であるため，保護者や先進校，外部の団体等との連携を強化し実践したい。

〈小・中連携での取組〉
小・中が合同で取り組む学習活動は
５月　・環境出前プレゼンテーション
　　中学３年生が小学校に出向いて，自分たちの今までの学習をもとに，小学生を対象にした「環境」についてのプレゼンテーションを行う。
７月　・小・中合同クリーンアップ
　　小・中学生を縦割りにし，地区ごとに２０前後のグループに分け，自分が住んでいる地域のクリーンアップを中学生がリーダーとなって行う。その際，ペットボトルキャップを地区内の家庭から回収する。
１２月　・小・中連携環境デー
　　中学３年生が小学生を招いて，エネルギー実験講座を行う。発電の説明をしたり，実際に発電させたりしながら，中学３年生が先生役となり小学生に教える活動を行う。また，中学生が行うパネルディスカッションに小学生がオブザーバーとして参加したり，ディベートの判定者として参加する活動を行う。
教科等と環境教育との関連は，新学習指導要領の全面実施を踏まえ，教科ごとの環境教育へのアプローチの仕方をはっきりとさせて取り組みたい。そして，環境教育からＥＳＤに迫りたいと考える。
そこで，今年度の新たな取組として，環境教育の中に「食育」分野を設けたことであり，「国際理解教育」についても，より充実したものにしていきたい。
「小・中連携」については，研究主任が窓口となって小学校と情報交換しながら進め，環境教育以外でも連携を深め，「確かな学力」向上に努めたい。また，地域人材やユネスコスクール，高校，大学，専門機関，ＮＰＯ，ＮＧＯ，国際機関等との連携を図り，持続可能な社会に寄与する生徒を育てていきたい。
事業の推進にあたっては，全国小・中学校環境教育研究会，秋田県地球温暖化防止運動推進センター，エネルギー環境教育情報センター，日本エネルギー環境教育学会，日本環境教育学会，日本ユネスコ国内委員会等からの情報と指導を得ながら進めていく。
研究の成果を学校内で共有し，評価・検証するための方策としては，校内に「環境学習コーナー」を設置し，生徒の学習状況や成果を掲示する。また，「大曲南地区環境通信ＥＳＤｏｍ」を発行し，小・中学校の保護者に向けて学習の成果を広く発信する。さらに，環境学習の公開授業（小・中連携環境デーをオープンスクールとして実施）を行ったり，大仙市や本校のホームページに研究成果を掲載したりする。生徒会活動では，大仙市中学生サミットでの発表をするなど，他校との情報交換等を積極的に行いたい。そうして，様々な活動を発信することで，地域と一緒に環境教育に取り組んでいきたいと考える。

4. 本事業における取り組みの評価・検証の計画
①学習前と学習後のイメージマップの比較・・・学習の深まりを評価・検証する。
②学習前後の意識調査（アンケート）の比較・・環境問題に対する意識の変容を検証する。
③生徒の感想等の記述からの評価・・・・・・・感想や意見をファイルしておき，変容を確認する。
④学習後の保護者アンケート・・・・・・・・・家庭生活での取組，家族の協力等を評価する。
⑤小・中連携に関する評価・・・・・・・・・・小学生が中学生のプレゼンテーション等を評価する。
⑥行動評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・エコチャレンジ等実施後の行動化を評価する。
⑦教師へのアンケート調査・・・・・・・・・・カリキュラム，生徒の変容について評価する。
⑧小・中教員による相互評価・・・・・・・・・研究内容や教育効果について，教員が相互評価する。